











人気の会場には長蛇の列が...

今年のアトラクションは内容充実の感があり、我が家の子供たちもジェットマンやヒーロー軍団に満足してました。場内の各テントもみな好評で、多くの人たちにぎわってました。また、例年のことですが、各テントをのぞいて回るのに、通路を占有している長蛇の列が支障となつていているのが気になります。

市民文化祭

多彩な催しや展示を満喫

竹取物語の語り読みにも感動

今年度の市民文化祭は、久方振りの晴れの良いお天気に恵まれ、市民文化館に大勢の人が集まりました。

多数の市民でにぎわう

祭りの企画には一考を

産業まつり

今年の市民文化祭は、久方振りの晴れの良いお天気に恵まれ、市民文化館に大勢の人が集まりました。竹取物語の語り読みにも感動しました。

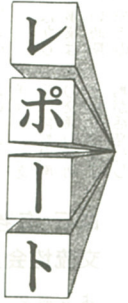
今年度の市民文化祭は、久方振りの晴れの良いお天気に恵まれ、市民文化館に大勢の人が集まりました。竹取物語の語り読みにも感動しました。



すばらしい出来栄の作品群に感嘆

山本 展子

十一月三日、四日の三日間、市文化会館を会場に「市民文化祭」が行われ、約二万五千人が来場しました。



はすばらしく、二年近くもかけて出来上がったよとの係の方の説明に、心から納得しました。

海老名むかしむかし 電話で海老名の昔ばなしが聞けます。 11月20日～12月3日 第102話 海老名の名木 12月4日～12月17日 第103話 昔が低くつたお家さん



国分村の領主 堀田正睦

江戸時代の中ごろ、これまで四十五年間わたって小田原藩領であった国分村は、宝暦十年(一七六〇年) 佐倉藩主堀田正亮の所領すべしと

めうとしたのである。勤農政策の中にはまた、子育て奨励策があった。これは生産力を持つ人口が次第に減少して行くことへの対応であり、農業生産を維持することこそが財政逼迫の佐倉藩にとって重要課題だったのである。

千六百両もの大金を用立てている。興金取分の鉄五郎家は高十六石余である。持高五石以上の家の合計は三十四戸で、これは全戸数の四分の一に達する。

この組織ができてから十五年後の嘉永六年(一八五三年)の国分村の人口は五百三十九人であるが、天保時代の人口を知る資料が手元にはない。

これら歴代領主のうち国分の龍峰寺に宿泊したこともある正睦は、老中として内外多事の難局に当たり、内にあっては藩政の改革に力を尽くした人物である。その藩政改革の重点の一つに勤農策があった。そのうちの二つは、勤農掛や在中取締の役を設けたことである。

勤農掛というのは藩の農政に関する方策を領内に徹底させるための役職で、天保七年(一八三六年) 下級武士から十人が選ばれて任命された。さらに村方にはその下に勤農役が置かれた。この役は村内の上、中層の農民より選ばれたが、国分村についてはわかたない。

堀田正睦の「興金不致」の文言がある講金の覚書(国分の田辺忠義氏所蔵)

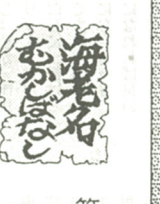
子育てを推進するため藩内に子育て掛代官、子育て掛手が置かれ、各村には子育て大世話、子育て小世話が設けられた。これに任せられたのはいすれも村役人級の農民であった。国分村では恐らく善八、友右衛門、幸助、善左衛門、四郎兵衛、利右衛門といった高持百姓の中から選ばれたことである。

正式の組織として、陰徳講というものを作つた。その組織と機能の詳細は不明であるが、「富者が子を産んだ人人物に施す」という社会福祉的性格を強く持ったものだった。

城付領の各村はもちろんだ、佐倉より遠隔の地にあった国分村にもその組織ができた。その講金を差し出した覚書が二通残っている。一通は金三兩の覚書で、それには上ケ切二差出、もう一通は金取分のもので「興金不致」の文言がある。どうも半強制的に堀田正睦が求めた興金講が、城付領の堀田千葉興金(の例をみる)、講金加入者は三十六人、持高五石未満の者は十八人入ると、これは全戸数の三分の一に当たり、その額は一朱から一兩二朱までで計八兩二朱となつた。

国分村の場合と違って、国分村の場合同じで、国分村の例にならうって十九年後の安政四年(一八五七年)の個人別記載の持高を基にして試算してみよう。

堀田正睦の「子育て教諭書」が出された。「在中にて胎中の子をおろし、うぶの子をつぶす事有之由、鳥獸さへ子をわがわが、おのが命をとらるるまでも、子をさばわれしとするものなるに、ましてや人としての子をわがわがな事はあるまじしなれど、全田畑のかせぎのさまたげをいとい、貧しきにかまけてのむさなるべし。まればに子なき人いか程ほしく思ひても、金銭にてかわれぬもの世、それに親の手づから殺すと、鳥けたものにもおとりたるむさにて、石塚の事いたす人は、神仏も深くにくみたまは、天の咎もまたあたりにて、其家によき事は来らず、終にはますますんききふするなり、此道理をよくきまふ、此後我等領内に子をさくろしつふ事、決りていたすまじく候」



第269話 国分村と陰徳講

- 百三十一石 善六
八十八石 友右衛門
四十六石 幸助
二十八石 善左衛門
二十四石 利右衛門
二十四石 四郎兵衛
二十石 市右衛門
二十石 市左衛門
二十石 宗右衛門

して持高の多い富農層を挙げると、